

ゆりな

標

言葉はいつだって私を世界へおびき出す

書いているときだけは私でいられた

体を任せ続けた跡からは後悔が舞い、足に込めた想いを持ち上げた先に手を伸ばす
言葉が私の中で朽ちるまえに

あなたは遠い標として私の心にピンを打つ